

令和2年度社会福祉法人こどもの国協会事業計画

1. 運営の理念

こどもの国は、次代を担う児童を明るく健全に育てるための児童厚生施設として、

- (1) 美しい自然環境のもと、児童が遊びを通して自主性、創造性を育てるとともに、健康を増進し、情操を豊かにする。
- (2) 全国の児童厚生施設のセンターとしての指導的役割を果たすことを理念として運営する。

2. 運営の目標

こどもの国は、以下の目標のもとに運営する。

- (1) 児童の発達に合わせて、健全な遊びが十分にでき、個人や家族あるいは団体に利用できるよう配慮する。
- (2) 児童の健全育成という原点を踏まえながら、時代状況に応じた運営に努力する一方、興味本位や営利に傾かないよう配慮する。
- (3) 児童の健全育成活動について専門的技術の向上のため、全国の児童厚生施設等の職員を対象とする研修会の開催に協力する。
- (4) 施設運営は独立採算を原則とし、入園料及び利用料を主な財源としつつ、財源面で運営上必要な工夫を図る。入園料及び利用料は現行水準を維持するよう努める。
- (5) 自然豊かな子ども達の遊び場としてさらに発展していくことが出来るよう、地域等との連携・利用者等の協力を含めて運営面を中心とした検討を行う等、安定的な運営の確保や自然環境の保護等に努める。

3. 目標入園者数及び入園者確保対策の推進

令和2年度（以下年号を省略。）の入園者数（有料）は、90万人を目標とする。

近年の入園者については、28年度88万人、29年度86万9千人、30

年度 87 万 3 千人となっているところである。元年度は 2 月末時点で 77 万 5 千人と例年を下回る入園者数となっており、今後もコロナウイルスの影響が心配されるところではあるが、暖冬により桜の開花も早く入園者数も増えると予想され、過去 5 年間の平均的な入園者数が見込めるところである。

2 年度においては、引き続き、入園者数の増加、顧客満足度の向上に向けて、以下の対策を推進することとしている。

4. 主な事業

(1) 令和 2 年 2 月から、コロナウイルスの影響により、屋内・屋外を問わず各種イベント等を中止としてきたが、今後のウイルス対策の動向に留意しつつ、園内に生息するカブトムシの幼虫、ザリガニ、セミ、バッタや草花、木の実など自然と親しむ四季折々のイベントや野草の天ぷら、さつまいも掘りなどの自然体験イベントを開催する。豊かな感性をはぐくむため、地元小学校の児童に、竹林整備や植物の植栽などの体験学習の場を提供する。

また、夏季のプール、冬季のスケート場の運営と、梅まつり、ツバキまつり、桜と羊のフェスティバル、こどもまつり等を引き続き実施するとともに、シニア層をはじめとする自然愛好家や自然の中を歩くノルディックウォーキングを実施するなど、入園者の満足度を高められるよう努める。

(2) 雪印こどもの国牧場と連携し、牛乳まつり、牧場まつりなど、牧場ならではのイベントを開催する。なお、雪印メグミルクには、こども動物園内の「ヤギとブタの飼育舎」を新設するとともに周辺エリアをリニューアルし、協会にご寄付いただいた。

(3) 企業の助成や協賛等により、春まつり、秋まつり、ジャンボかるたとり、どんど焼き、サンマを炭火で食べる会、神奈川県児童福祉施設駅伝大会卒業生送別 マラソン大会、フォトコンテストを実施する。教育関係団体等の協力を得て、引き続き吹奏楽コンテスト、青空コンサート、サッカー大会等を開催する。

宝くじ協会の助成により、令和 2 年 3 月に完成した「ふれあい学び館」においては、こどもの国の歴史や自然環境をパネル展示し、体験学習の拠点としての機能を担っていくこととしている。また、紙芝居や遊びの広場など屋内型イベントを開催する。

- (4) 東京急行電鉄と横浜高速鉄道による、車両内外装を牛と牧場に模してラッピングした「うしでんしゃ」が運行中である。当初、2020年3月までの運行予定であったが、評判がよいことから、期間を定めずに延長することになり、加えてもう一編成に羊をラッピングし、「ひつじでんしゃ」として3月末から運行することになっている。
- (5) 今後、外国人の来園がより増加すると見込み、園内地図英語版をカラー化も含めリニューアルする。

5. 地域等との連携

地域の児童に体験学習の場を提供するとともに、地元の中学・高校が実施する職場体験学習の生徒を積極的に受け入れ、総合的学習、進路学習に寄与する。

夏・冬休みの地元自治会主催の「親子の集い」行事では、プール、スケートを無料開放する。生徒や学生に対し、ボランティア活動の機会を提供する。また、地元青葉区民デーにおける中学生以下の入園料無料や警察・消防などの公的機関及び地域団体等との連携を深める。更に、地域共生社会の推進の観点から、昨年11月より地域の若年認知症及び障害者団体の就労支援事業と協働し、利用者サービス向上のため、園内のベンチ清掃を毎週1回実施しており、令和2年度も引き続き委託するほか、更なる検討を進める。

6. 自然環境および施設・設備

- (1) 自然環境整備及びそれに付随した事業の実施
豊かな自然を維持するため、樹木の剪定、伐採を計画的に進める。
- (2) 施設・設備の管理
老朽化が進んだ「皇太子記念館」については、国庫補助による耐震改修、大規模修繕等を予定している。併せて、「こどもの国の施設整備計画」に従い、必要な施設・設備の維持、充実を着実に進める。
- (3) 次世代への承継
既定の財源に加え、利用者その他関係者から寄付金を受け入れ、基金として活用する方策について検討を進める。

7. 広報・PR活動

こどもの国のホームページを積極的に活用し、新規コーナーの開設など内容を充実させるとともに、新たに園内の“草花”や“虫”等を取り上げたページを新設し、検索サイト等からの来訪を増やすことを目指す。また、スマートフォン向けの情報、SNSによる発信に努める。企業と連携する「出前こどもの国」は こどもの国を知らない方が多い地区での開催場所の拡大に努める。利用者増のため、学校等への働きかけをこれまで以上に進める。広報紙「こどもの国ニュース」は、全国配布の強みを生かし、紙面の内容を充実させる。

8. 消費税増税に伴う利用料の値上げの平年度化等

利用料の一部について昨年10月から消費税増税を踏まえて値上げしており、令和2年度においては、これを平年度化するとともに、プールについては、当該年度において実施する。

9. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、政府方針等に従うとともに、当面、以下に留意して取り組みを実施する。

(1) 密室、密集(接触)での活動を避けるよう、各種イベントの開催、屋内施設等の利用を必要に応じて制限する。

(2) パネル設置や園内放送等により、お客様へ手洗いの励行を促す。

(3) スタッフは接客時マスクの着用につとめる。